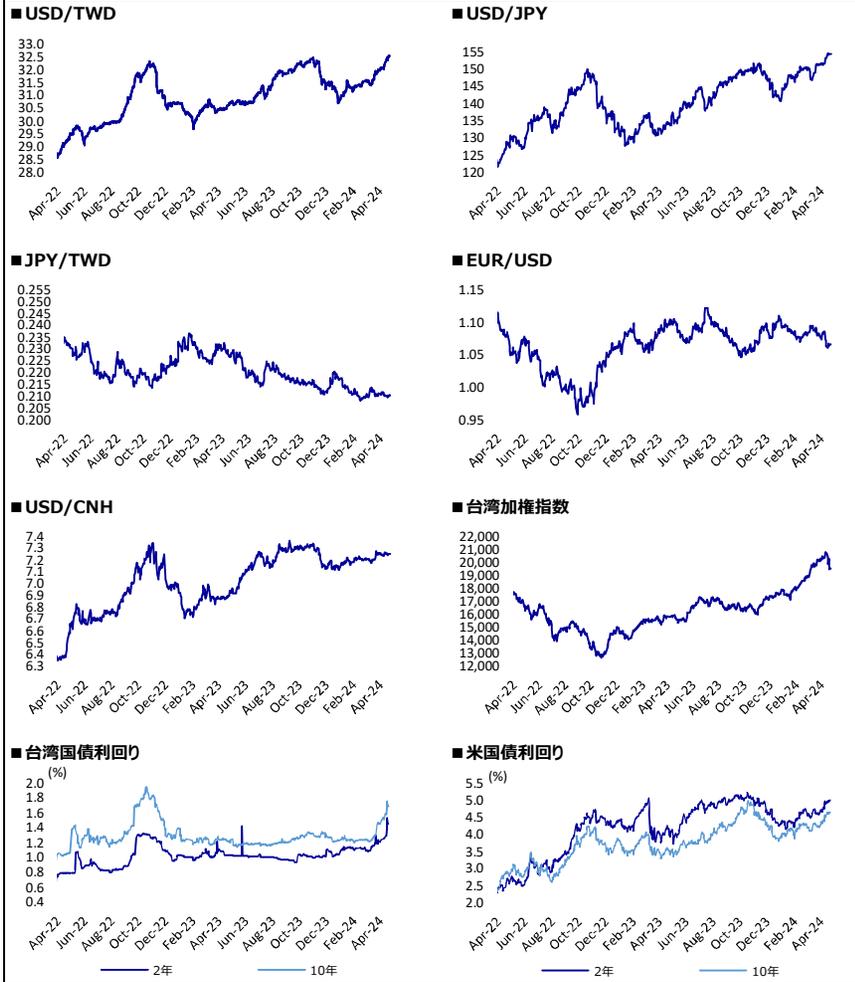


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初4/15は32.350でオープン後、中東情勢の悪化を受けてドル買い圧力が高まり32.30台後半で底堅く推移。4/16は前日海外時間に発表された米3月小売売上高が市場予想を上回る堅調な結果となっていたことを受けて米金利が上昇する中、ドル買いが進み32.50台半ばまで上昇した。4/17は、米金利の上昇が一服していた他、海外投資資金送金の鈍化や輸出業者による外貨売りも見られ、ドル買い圧力が一服し32.50を挟み揉み合いの推移。4/18は、日米韓の財務相会合実施が報じられていたことを受けて為替介入への警戒感が高まり、アジア通貨が買い戻される展開となり一時32.340まで下落。4/19はイスラエルからイランへ直接攻撃が実施されたと報じられると、中東における地政学リスクが高まりドル買いが優勢な展開に。台湾株も急速に下落が進み、外国人投資家による台湾株売りが大きく見られた。台湾ドル売り圧力が強まり一時32.586まで上昇。最終的には前週比0.7%ドル高台湾ドル安の32.512で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は1,820.0億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初4/15は153.20でオープン後、海外時間に発表された米3月小売売上高が市場予想を上回る堅調な結果となったことを受けて、ドル買いが優勢な展開となり154円台半ばまで上昇。4/16は、材料の無い中、急速にドルが売られ一時154円台を下回る等、為替介入を警戒する神経質な展開に。しかしその後FRB議長のパウエルより「より長期的に抑制的な政策金利を維持する必要がある」とのスタンスが示され、利下げ期待が剥落しドル買い圧力が優勢な展開に。一時154.79まで上昇した。4/17は、日米韓の財務相会合において、為替市場について「緊密に協議する」ことで同意したことが報じられ、為替介入への警戒感から円買いが優勢な展開となり154円台前半まで下落。4/18は、材料に乏しく揉み合いの推移。4/19は、イスラエルからイランへ直接攻撃が実施されたとの報道を受けリスクセンチメントが悪化し、円買いが優勢な展開となり一時153.59まで下落。しかしその後のイランの反応が落ち着いたものとなっていたことでドルが買い戻され、154円台半ばまで上昇。下に行っていく展開となった。最終的には前週比0.9%ドル高円安の154.63で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.500-32.800
今週は底堅い推移を見込む。米経済が堅調さを維持している中、米利下げ期待は剥落しやすい他、地政学リスクの高まりを受けて台湾株の下落が続く場合、ドル買い圧力は根強く残存するであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：150.00-156.00
今週は上値の重い推移を見込む。財務省による為替介入への警戒感が残存する他、週末に日銀金融政策決定会合を控えていることから、ドルは買われづらいであろう。

今週の予定

4/22 (MON)	台湾3月失業率、台湾3月輸出受注
4/23 (TUE)	台湾3月鉱工業生産、米3月新規住宅着工件数
4/24 (WED)	日3月サービスPPI、米3月耐久財受注
4/25 (THU)	米第1四半期GDP、米第1四半期コアPCE
4/26 (FRI)	日4月東京都部CPI、日銀金融政策決定会合、米3月PCE

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。